

編集後記

人間は5感を使って情報を収集しますが、情報量の85%以上は視覚からで、その視覚の情報処理速度は最大3Mbpsと他の4感に比べ圧倒的に速いということです。そういった意味で、人間とマシンのインターフェイスとなるディスプレイは非常に重要なものです。そのディスプレイで、40型以上の大型化を初めて実現したのがプラズマディスプレイです。1993年に日本で製品化された日本発のディスプレイで、プラズマという言葉非常に身近なものにしてくれました。そのプラズマディスプレイの製造を国内の全メーカーが中止し、残りは外国メーカーのみとなりました。この20年の間に世間に大きく認知されただけに残念です。プラズマディスプレイの原理を少し調べてみました。放電の特徴を実に上手く利用しております。例えば、明るさは放電回数で変え、ドットの点灯・非点灯は、ドットの電極表

面の電荷の“あり”、“なし”で放電開始電圧に差をつけて選択します。また、近年の超低消費電力プラズマディスプレイは、電子が出やすいナノ酸化物を電極表面に塗布し、さらに放電ガス、電極形状、電圧波形とあらゆる放電要素を工夫しています。数百ミクロンサイズの1ドットに最先端の放電技術を終結させたプラズマディスプレイは、まさに放電プラズマの芸術といえる製品です。私も8年前PI社製の42型プラズマテレビを購入し、現在も元気に全ドット放電しています。しかし6歳の愛娘はスマートフォンで、奥さんはデスクトップパソコンでおのおの好みの動画を楽しんでおり、大型プラズマテレビの臨場感ある映像への感動と興味は大幅に薄れています。これを打破するにはさらに大型の55型以上しかないでしょう。この機会に一家に1枚プラズママップ、一家に1台プラズマテレビはいかがでしょうか。(内田儀一郎)

プラズマ・核融合学会役員

会 長	二宮 博正	副 会 長	永津 雅章 (推薦委員長: 研究助成)	小森 彰夫 (推薦委員長: 学会賞)
常務理事	室賀 健夫 (総務委員長)			
理 事	安藤 晃 (企画委員長)	石原 修	上田 良夫	
	小野 靖	甲斐 俊也 (財務委員長)	草間 義紀 (広報委員長)	
	佐々木浩一	清水 克祐	白神 宏之 (支部・地区研究連絡会委員長)	
	白谷 正治 (研究部会連絡委員長)	豊田 浩孝 (編集委員長)	波多野雄治	
	福山 淳 (年会運営委員長)	米田 仁紀		
監 事	市村 真	中澤 一郎		

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ: 豊田浩孝 (名大) 副委員長: 米田仁紀 (電通大)

エディタ: 安藤 晃 (東北大), 坂本瑞樹 (筑波大), 中村祐司 (京大), 長友英夫 (阪大), 小西哲之 (京大) 佐々木浩一 (北大)

編集委員: 石澤明宏 (核融合研), 内田儀一郎 (阪大), 浦野 創 (原子力機構), 落合謙太郎 (原子力機構), 陰山 聡 (神戸大), 笠田竜太 (京大), 糟谷直宏 (九大), 加道雅孝 (原子力機構), 川崎仁晴 (佐世保高専), 柴田裕実 (阪大), 清水一男 (静岡大), 白石裕之 (大同大), 城崎知至 (広島大), 鈴木達也 (長岡技科大), 高橋俊樹 (群馬大), 徳沢季彦 (核融合研), 沼田龍介 (兵庫県立大), 長谷川純 (東工大), 林 信哉 (九大), 菱沼良光 (核融合研), 古川 勝 (鳥取大), 増井博一 (九工大), 松岡彩子 (JAXA), 宮澤順一 (核融合研), 森 芳孝 (光産業創成大学院大), 森本泰臣 (日揮), 山本 聡 (京大)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第90巻第8号

編集・発行

〒464-0075 名古屋市千種区内山3丁目1-1 4階

印刷 株式会社荒川印刷

一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会

2014年(平成26年)8月25日

Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485

E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: http://www.jspf.or.jp/ 定価1,300円(税別)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。